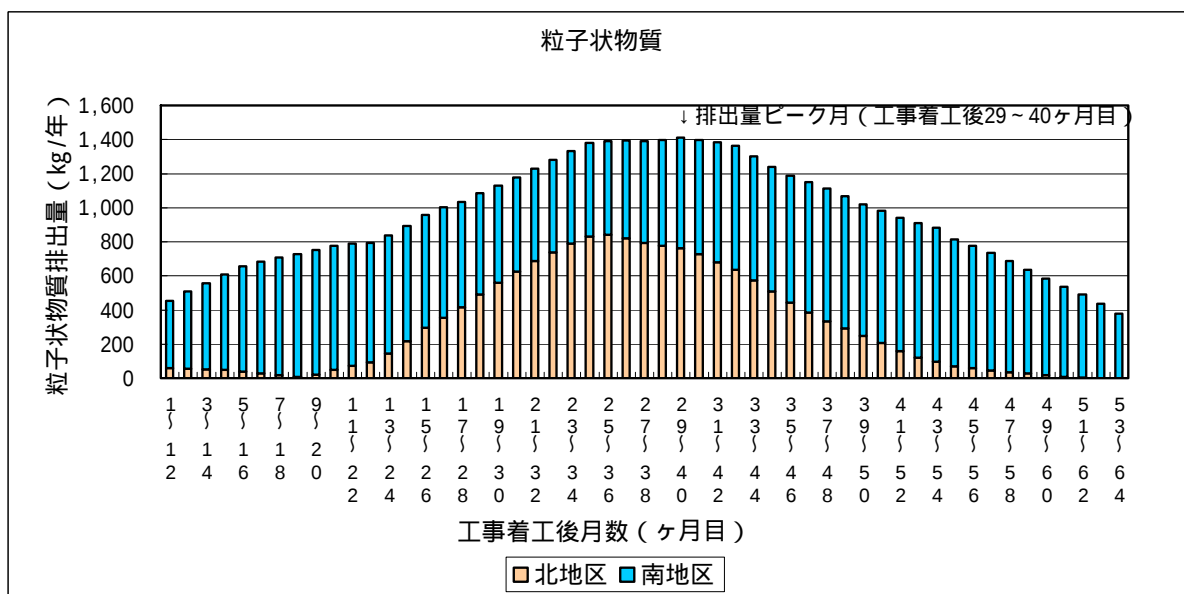
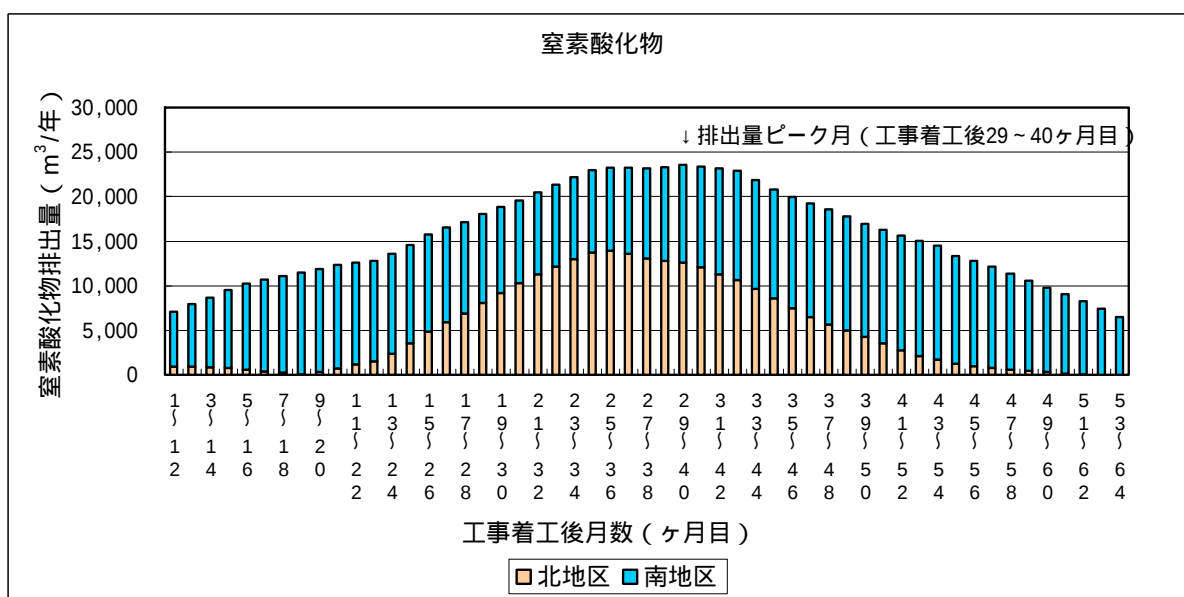


1. 大気質

両地区を合わせた建設機械の稼働による窒素酸化物及び粒子状物質の年間排出量(12ヶ月積算値)は、以下に示すとおりである。

予測時期は、両物質とも、排出量が最大となる工事着工後29～40ヶ月目とした。

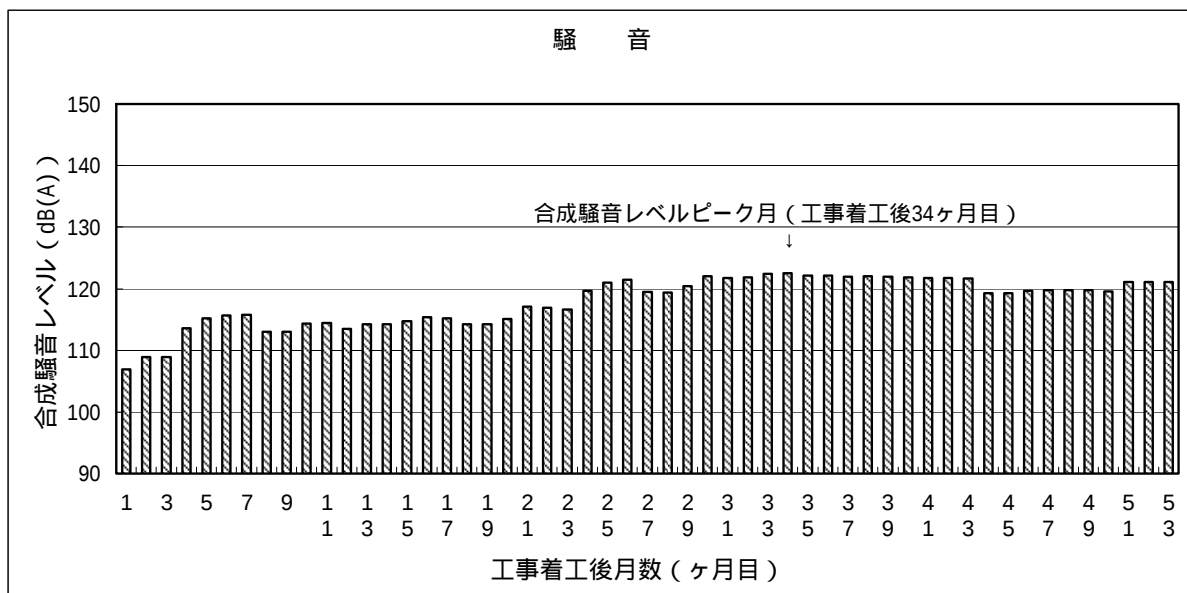


注) 排出係数は、「道路環境影響評価の技術手法 第2巻」(財団法人 道路環境研究所, 2007 年)に基づき算出した。

2. 騒音・振動

両地区を合わせた建設機械の稼働による合成騒音レベルや合成振動レベルは、以下に示すとおりである。

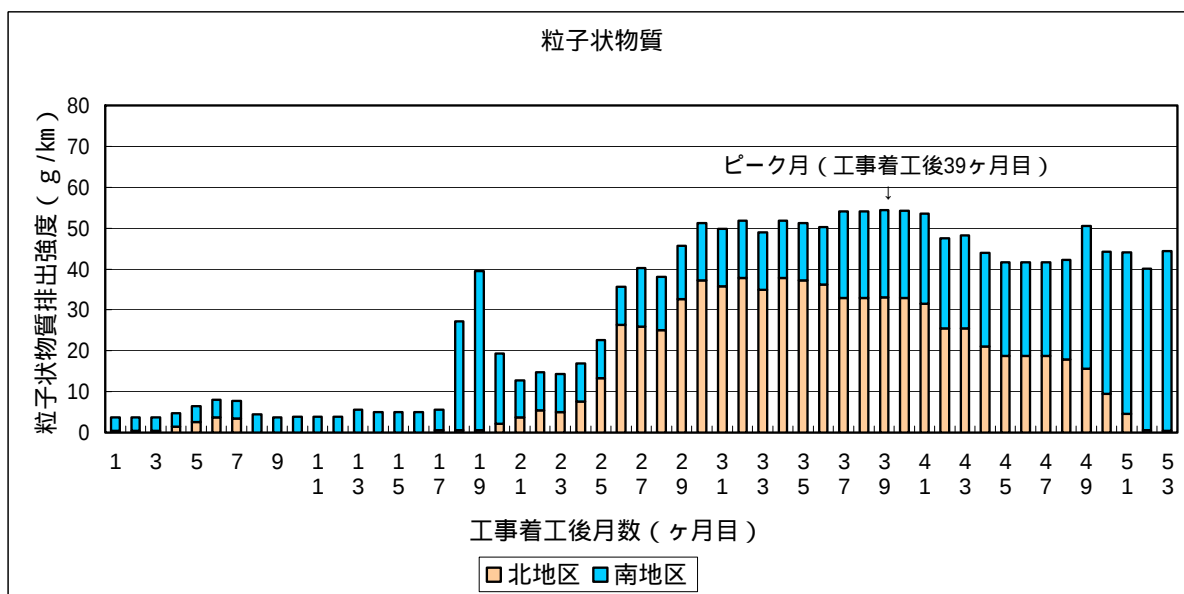
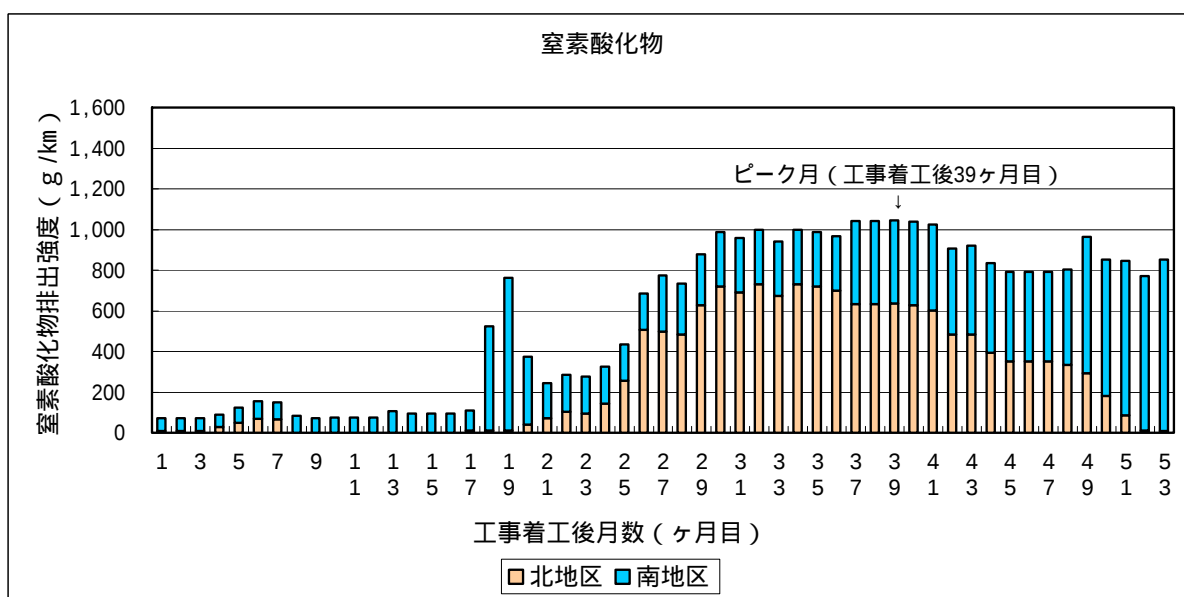
予測時期は、騒音及び振動ともに、合成騒音レベルや合成振動レベルが最大となる工事着工後 34 ヶ月目とした。



1. 大気質

両地区を合わせた工事関係車両の走行による窒素酸化物及び粒子状物質の排出強度は、以下に示すとおりである。

予測時期は、両物質とも、排出強度が最大となる工事着工後 39 ヶ月目とした。



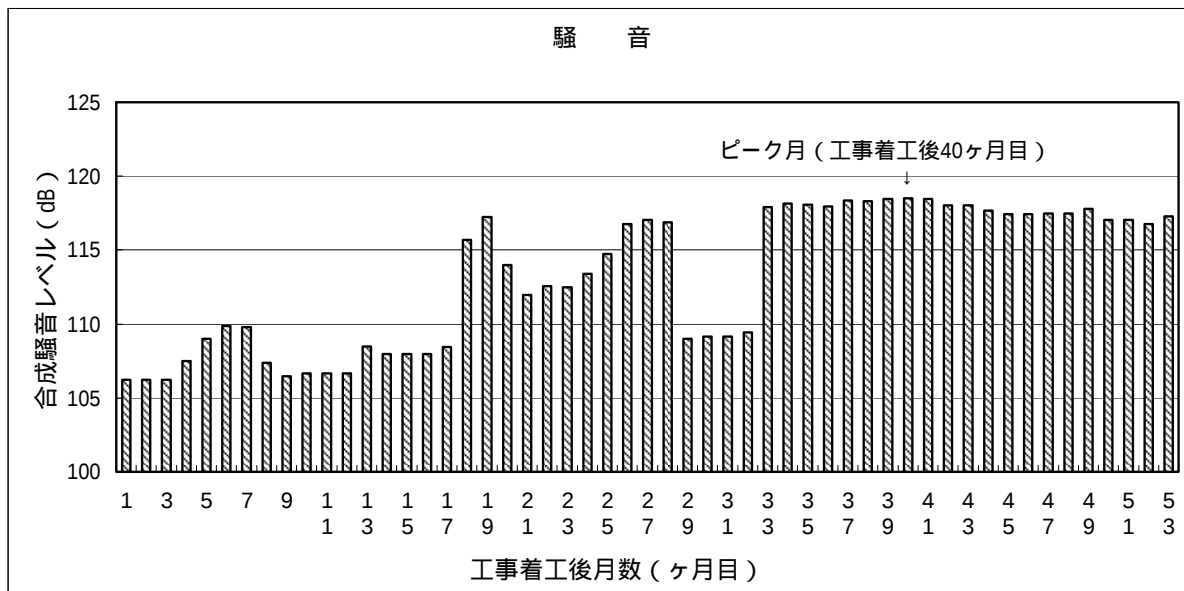
注)1: 排出係数は、「自動車排出係数の算定根拠」(国土交通省, 平成 15 年) に示す平均走行速度 60 km/時の数値を用いた。

2: 排出強度は、車種別工事関係車両台数及び排出係数を用いて算出した。

2. 騒音

両地区を合わせた工事関係車両の走行による合成騒音レベルは、以下に示すとおりである。

予測時期は、合成騒音レベルが最大となる工事着工後 40 ヶ月目とした。



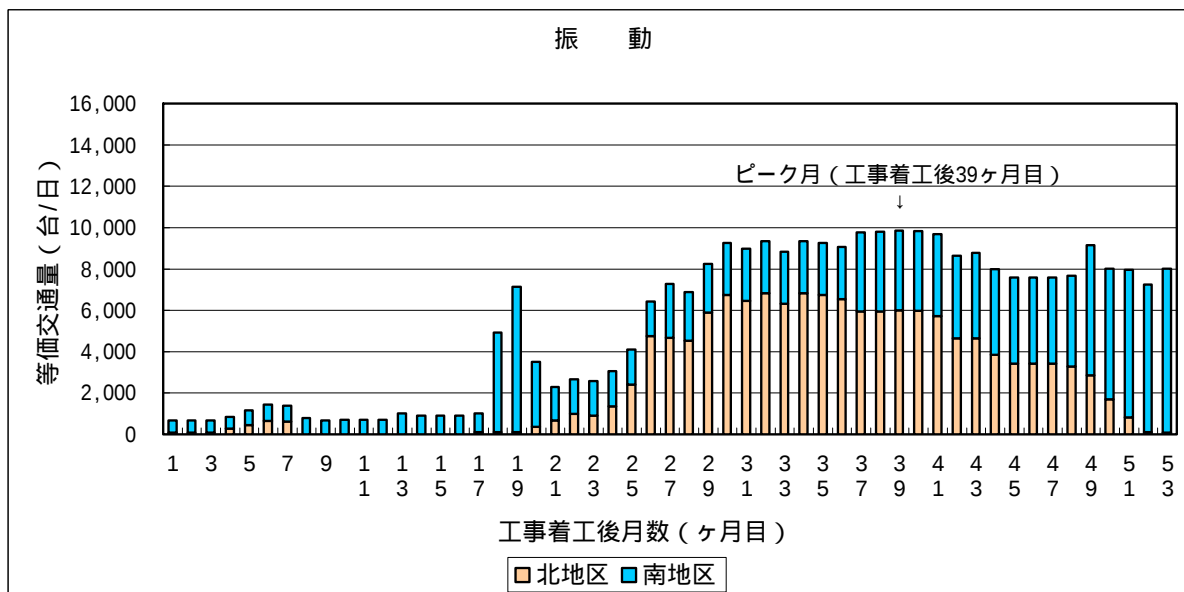
注)1:車種別パワーレベルは、ASJ RTN-Model 2008 に示す大型車 90.0dB、中型車 87.1dB、小型貨物車 83.2dB を用いた。

2:合成騒音レベルは、車種別工事関係車両台数及びパワーレベルを用いて算出した。

3. 振動

両地区を合わせた工事関係車両の走行による等価交通量、以下に示すとおりである。

予測時期は、等価交通量が最大となる工事着工後 39 ヶ月目とした。

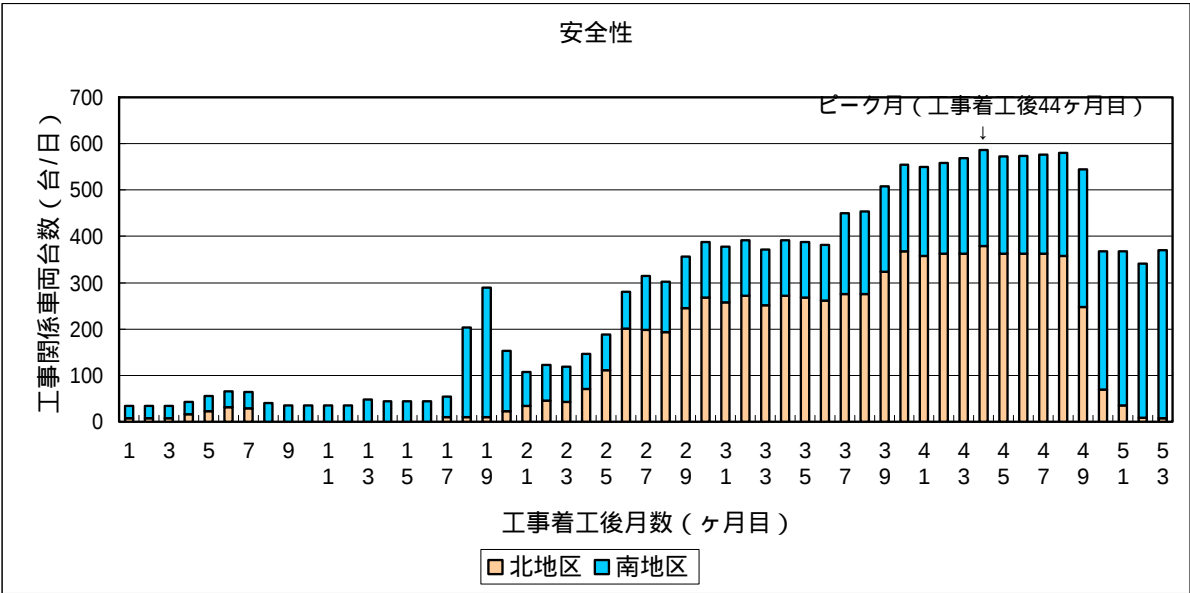


注) 等価交通量は、旧建設省土木研究所の提案式に基づき算出した。

4. 安全性

両地区を合わせた工事関係車両の走行台数は、以下に示すとおりである。

予測時期は、走行台数が最大となる工事着工後 44 ヶ月目とした。



添付 - 3 建設機械の稼働による大気汚染の予測条件

[p.16,19 参照]

【排出ガス諸元】

事業名	建設機械名	規格	定格出力 (kW)	年間稼働 延べ台数 (台)	標準運転 時間 (時/日)	燃料 消費量 (ℓ/h・台)	窒素酸化物 排出量 (m ³ /年)	粒子状物質 排出量 (kg/年)	備考
北地区	クローラクレーン	50 t	132	1,150	5.92	11.75	807.17	43.69	対策型
		80 t	184	425	5.92	16.38	415.82	22.50	対策型
		100 t	184	525	5.92	16.38	513.66	27.79	対策型
		150 t	235	75	5.92	20.92	93.72	5.07	対策型
		200 t	235	175	5.92	20.92	218.68	11.83	対策型
	コンクリートポンプ車	大型	141	650	7.00	11.00	1,288.33	72.14	-
	コンクリートミキサー車	10 t	213	1,150	4.94	12.57	1,838.48	102.95	-
	コンプレッサー	50HP	37	625	8.00	6.99	406.20	34.38	対策型
	ダンプトラック	10 t	246	1,875	6.00	12.30	3,562.52	199.49	-
	泥水プラント	200KVA	75	25	8.00	67.50	342.19	21.18	-
	バックホウ	0.2m ³	41	75	6.25	7.18	37.57	3.18	対策型
		0.4m ³	64	1,225	6.25	11.20	862.45	67.18	対策型
		0.7m ³	116	1,025	6.25	20.30	1,307.97	101.89	対策型
	ラフタークレーン	25 t	193	575	5.93	19.88	683.56	36.99	対策型
		50 t	257	150	5.93	26.47	237.46	12.84	対策型
南地区	クローラクレーン	50 t	132	400	5.92	11.75	280.76	15.19	対策型
		80 t	184	1,525	5.92	16.38	1,492.06	80.75	対策型
		100 t	184	575	5.92	16.38	562.58	30.45	対策型
		200 t	235	100	5.92	20.92	124.96	6.76	対策型
	コンクリートポンプ車	10 t	141	100	7.00	11.00	198.20	11.10	-
	コンクリートミキサー車	10 t	213	900	4.94	12.57	1,438.81	80.57	-
	コンプレッサー	50HP	37	375	8.00	6.99	234.35	19.84	対策型
	ダンプトラック	10 t	246	1,000	6.00	12.30	1,900.01	106.39	-
	泥水プラント	200KVA	75	300	8.00	67.50	4,106.32	254.18	-
	バックホウ	0.4m ³	64	425	6.25	11.20	299.22	23.31	対策型
	ブルドーザー	97kW	97	150	5.00	16.98	128.05	9.97	対策型
	ラフタークレーン	50 t	257	100	5.93	26.47	158.30	8.57	対策型
排出量合計							23,539.40	1,410.18	-

注)1:標準運転時間は、「平成 21 年度版 建設機械等損料表」(社団法人 日本建設機械化協会, 平成 21 年) における年間標準運転時間及び年間標準運転日数より算出した。

2:備考に示す「対策型」とは二次排出ガス対策型を、「-」とは排出ガス未対策型をいう。

添付 - 4 工事関係車両及び新建築物関連車両（事業予定地周辺道路）の走行による
大気汚染予測における排出係数

[p.25,38,40 参照]

【車種別排出係数】

窒素酸化物

単位：g/km・台

予測断面	車 種	平成26年	平成28年	予測断面	車 種	平成26年	平成28年
№ 1	大型車	1.40	1.37	№ 8 (都市高速道路)	大型車	-	2.45
	小型車	0.071	0.067		小型車	-	0.095
№ 2	大型車	1.98	1.91	№ 9	大型車	-	1.43
	小型車	0.105	0.095		小型車	-	0.073
№ 3	大型車	1.49	1.40	№10	大型車	1.28	1.27
	小型車	0.073	0.070		小型車	0.069	0.068
№ 4	大型車	1.26	1.25	№11	大型車	1.32	1.30
	小型車	0.067	0.066		小型車	0.062	0.061
№ 5	大型車	1.40	1.35	№12	大型車	1.32	1.32
	小型車	0.072	0.068		小型車	0.067	0.065
№ 6	大型車	-	1.67	№13	大型車	1.32	1.27
	小型車	-	0.081		小型車	0.064	0.061
№ 7	大型車	-	1.46	№14	大型車	1.59	-
	小型車	-	0.073		小型車	0.083	-
№ 8 (市道)	大型車	-	1.46	№15	大型車	-	1.30
	小型車	-	0.076		小型車	-	0.063

注) 車種別排出係数は、「自動車排出係数の算定根拠」(国土交通省国土技術政策総合研究所
資料第141号,平成15年)に基づき算出した。

粒子状物質

単位：g/km・台

予測断面	車 種	平成26年	平成28年	予測断面	車 種	平成26年	平成28年
№ 1	大型車	0.074	0.072	№ 8 (都市高速道路)	大型車	-	0.113
	小型車	0.004	0.004		小型車	-	0.006
№ 2	大型車	0.102	0.098	№ 9	大型車	-	0.075
	小型車	0.006	0.006		小型車	-	0.004
№ 3	大型車	0.078	0.074	№10	大型車	0.068	0.067
	小型車	0.004	0.004		小型車	0.004	0.004
№ 4	大型車	0.067	0.066	№11	大型車	0.070	0.069
	小型車	0.004	0.004		小型車	0.004	0.003
№ 5	大型車	0.074	0.071	№12	大型車	0.070	0.070
	小型車	0.004	0.004		小型車	0.004	0.004
№ 6	大型車	-	0.086	№13	大型車	0.070	0.067
	小型車	-	0.005		小型車	0.004	0.003
№ 7	大型車	-	0.077	№14	大型車	0.083	-
	小型車	-	0.004		小型車	0.005	-
№ 8 (市道)	大型車	-	0.077	№15	大型車	-	0.069
	小型車	-	0.004		小型車	-	0.003

注) 車種別排出係数は、「自動車排出係数の算定根拠」(国土交通省国土技術政策総合研究所資料第141号,平成15年)に基づき算出した。

【背景交通量】

単位：台/日

予測断面	車 種	現況交通量 A	ささしま地区 関連車両 B	背景交通量 A + B
№ 1	大型車	1,356	-	1,356
	小型車	10,697	-	10,697
№ 2	大型車	335	-	335
	小型車	5,943	-	5,943
№ 3	大型車	201	-	201
	小型車	2,738	-	2,738
№ 4	大型車	1,247	-	1,247
	小型車	15,897	-	15,897
№ 5	大型車	827	-	827
	小型車	13,220	-	13,220
№10	大型車	2,755	0	2,755
	小型車	42,855	1,970	44,825
№11	大型車	2,655	0	2,655
	小型車	47,015	658	47,673
№12	大型車	1,904	0	1,904
	小型車	32,682	318	33,000
№13	大型車	874	-	874
	小型車	15,069	-	15,069
№14	大型車	324	-	324
	小型車	5,176	-	5,176

注)1: ささしま地区関連車両は、「ささしまライブ 24 地区「(仮称)グローバルゲート」建設事業に係る環境影響評価準備書」(ささしまライブ 24 特定目的会社, 平成 21 年)より設定した。

2: ささしま地区関連車両を想定した№10～12 以外については、「-」と表記した。

【工事関係車両の交通量】

北地区

予測 断面	日交通量(台/日) [()内は時間交通量(台/時)]		
	大型車		小型車
	大型車	中型車	小型貨物車
	7 ~ 17 時 (11 ~ 13 時を除く)	7 ~ 21 時 ^{注)} (11 ~ 13 時を除く)	7 ~ 21 時 ^{注)} (11 ~ 13 時を除く)
No 1	126 (16)	30 (0 ~ 11)	70 (0 ~ 25)
No 2	72 (9)	17 (0 ~ 2)	40 (0 ~ 4)
No 3	36 (5)	9 (0 ~ 1)	20 (0 ~ 2)
No 4	126 (16)	30 (0 ~ 5)	70 (4 ~ 14)
No 5	108 (14)	26 (0 ~ 3)	60 (0 ~ 7)
No 10	36 (5)	9 (0 ~ 1)	20 (0 ~ 2)
No 11	36 (5)	9 (0 ~ 1)	20 (0 ~ 2)
No 12	18 (2)	4 (0 ~ 1)	10 (0 ~ 1)
No 13	54 (7)	13 (0 ~ 2)	30 (0 ~ 3)
No 14	18 (2)	4 (0 ~ 1)	10 (0 ~ 1)

注) 北地区事業の中型車や小型貨物車の走行は、7 ~ 8 時及び 18 ~ 21 時に配分する計画であるが、本予測対象時期においては、これらの走行台数が多くなるため、この台数を他の時間帯にも振り分けることにより、特定の時間帯への過大な負荷を低減させる計画とした。

南地区

予測 断面	日交通量（台/日）[()内は時間交通量（台/時）]			
	大型車			小型車
	大型車		中型車	小型貨物車
	7～17時 (11～13時を除く)		6～21時 (11～13時を除く)	6～21時 (11～13時を除く)
	ダンプ車両 生コン車両	トレーラ		
№ 1	116 (15)	30 (4)	85 (7)	62 (5)
№ 2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
№ 3	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
№ 4	23 (3)	0 (0)	17 (2)	10 (1)
№ 5	19 (2)	0 (0)	14 (1)	8 (1)
№10	4 (1)	0 (0)	3 (1)	2 (1)
№11	4 (1)	0 (0)	3 (1)	2 (1)
№12	4 (1)	0 (0)	3 (1)	2 (1)
№13	8 (1)	0 (0)	6 (1)	4 (1)
№14	4 (1)	0 (0)	3 (1)	4 (1)

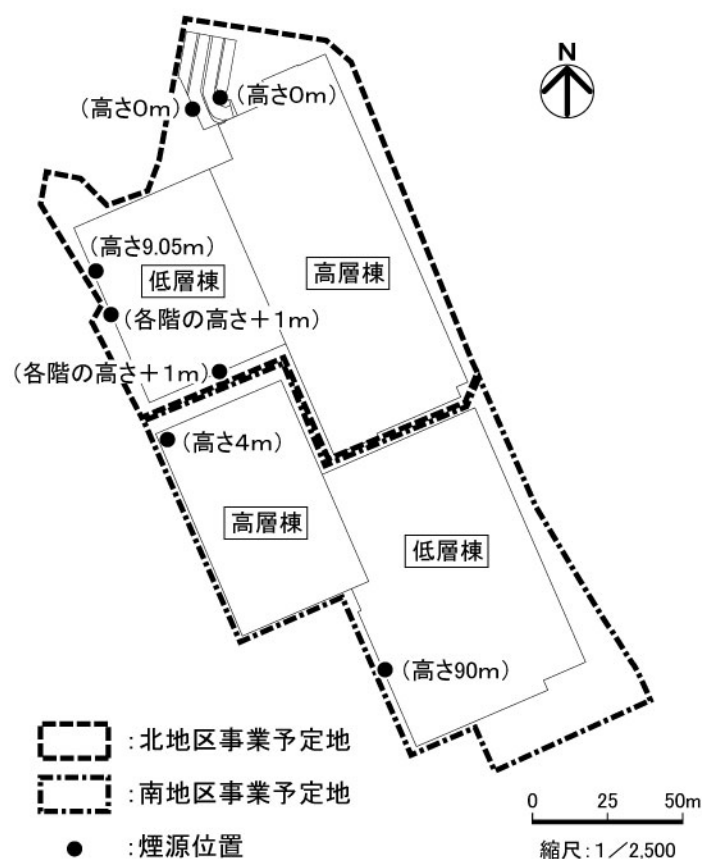
【バスターミナルの位置】

両地区新建築物の1階に設ける計画である。

【排出源モデルの設定】

バスターミナルの換気方式は、特定の箇所からの強制換気を計画していることから、点煙源を排気口がある北地区新建築物西側側面に配置した。排出源の高さは、地上9.05mとした。

バスターミナルの煙源の位置は、両地区の駐車場及び荷捌き場における煙源の位置と併せ、図 - 1 に示すとおりである。



【バスターミナル利用台数及び排出量の算定】

煙源高さ (m)	利用台数 (台/日)	走行距離 (km)	排 出 量	
			窒素酸化物 (g / 日)	粒子状物質 (g / 日)
9.05	1,179	0.4	1,611.93	65.55

【場内走行速度】

徐行運転がなされると想定し、10 km/時とした。

【建設機械の音圧レベル】

地区名	図番号	建設機械名	規 格	稼働台数 (台)	1/1オクターブバンド音圧レベル (dB)									周波数 特 性	測定位置 (m)	備 考
					A.P.	63Hz	125Hz	250Hz	500Hz	1kHz	2kHz	4kHz	8kHz			
北地区		バ ックホ (圧砕)	0.4 ～ 0.7m ³	4	82	79	72	71	73	72	71	69	66	F	7	-
		バ ックホ (掘削等)	0.4 ～ 0.7m ³	4	77	67	74	70	70	64	61	57	48	F	7	低騒音型
		コンプレッサ	50HP	3	88	75	85	81	75	71	73	75	62	F	7	低騒音型
		クローラークレーン	50 ～ 200t	10	77	71	69	70	72	67	60	54	52	F	7	低騒音型
		ラフターークレーン	25t	1	77	71	69	70	72	67	60	54	52	F	7	低騒音型
		タワークレーン	600t	3	77	71	69	70	72	67	60	54	52	F	7	-
		タワークレーン	300t	2	77	71	69	70	72	67	60	54	52	F	7	-
		コンクリートポンプ車	大型	3	92	81	82	89	85	84	80	75	-	C	7	-
		コンクリートミキサー車	10t	3	92	81	90	84	79	80	78	-	-	C	7	-
		ダンプトラック	10t	5	79	53	61	65	67	70	68	64	57	A	5	-
南地区		バ ックホ (掘削等)	0.4m ³	1	77	67	74	70	70	64	61	57	48	F	7	低騒音型
		コンプレッサ	50HP	1	88	75	85	81	75	71	73	75	62	F	7	低騒音型
		クローラークレーン	50 ～ 100t	9	77	71	69	70	72	67	60	54	52	F	7	低騒音型
		泥水ポンプ	200kVA	1	80	77	75	70	62	58	52	48	42	C	20	-
		コンクリートミキサー車	10t	3	92	81	90	84	79	80	78	-	-	C	7	-
		ダンプトラック	10t	2	79	53	61	65	67	70	68	64	57	A	5	-

注)1:図番号は、参考資料図 3-1-1 (p.43) と対応する。

2:表中の A.P. は、オールパス音圧レベルを示す。

3:ラフターークレーンは、クローラークレーンのデータを用いた。

4:タワークレーンは、電動機を動力源とするため、騒音が問題となることはほとんどないが、安全側に予測するため、クローラークレーン (低騒音型) のデータを用いた。

5:備考欄の「-」は、出典とした文献に対策有りの原単位が示されていないため、一般的な原単位を想定したものである。

出典)「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック (第3版)」(社団法人 日本建設機械化協会, 平成 13 年)

【障壁による回折減衰】

両事業ともに高さ 3 m の仮囲い (万能鋼板) を設置する計画であることから、回折による騒音レベルの減衰を考慮した。

建設機械の稼働による騒音の影響について、高さ方向を加味した断面予測を行った。

断面の予測場所は、図 - 1 に示すとおり、北地区事業予定地西側にある民家を考慮した東西断面と、南地区事業予定地東側にあるビルを考慮した東西断面の 2 断面とした。

断面予測結果は、図 - 2 に示すとおりである。

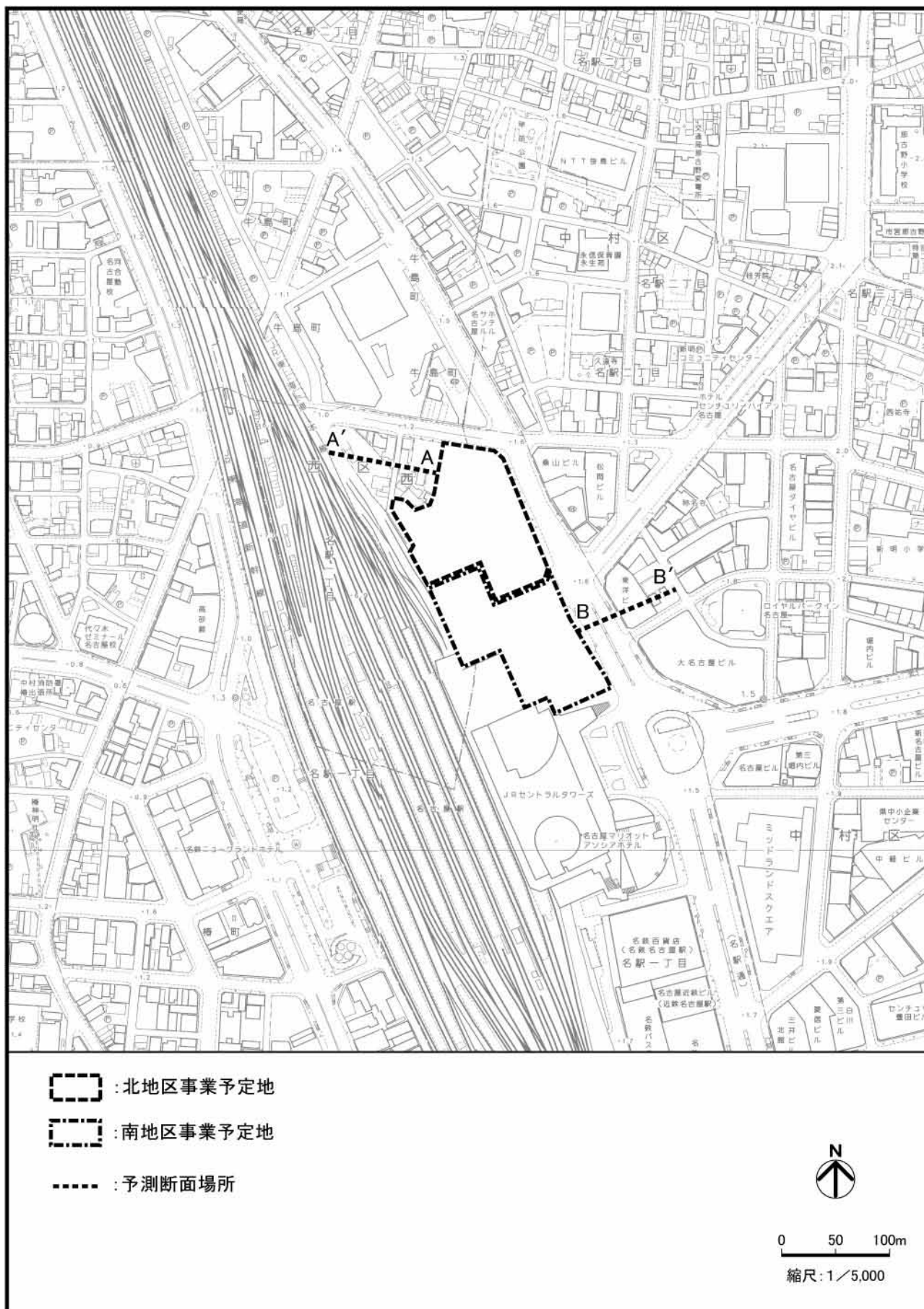


図 - 1 断面予測場所

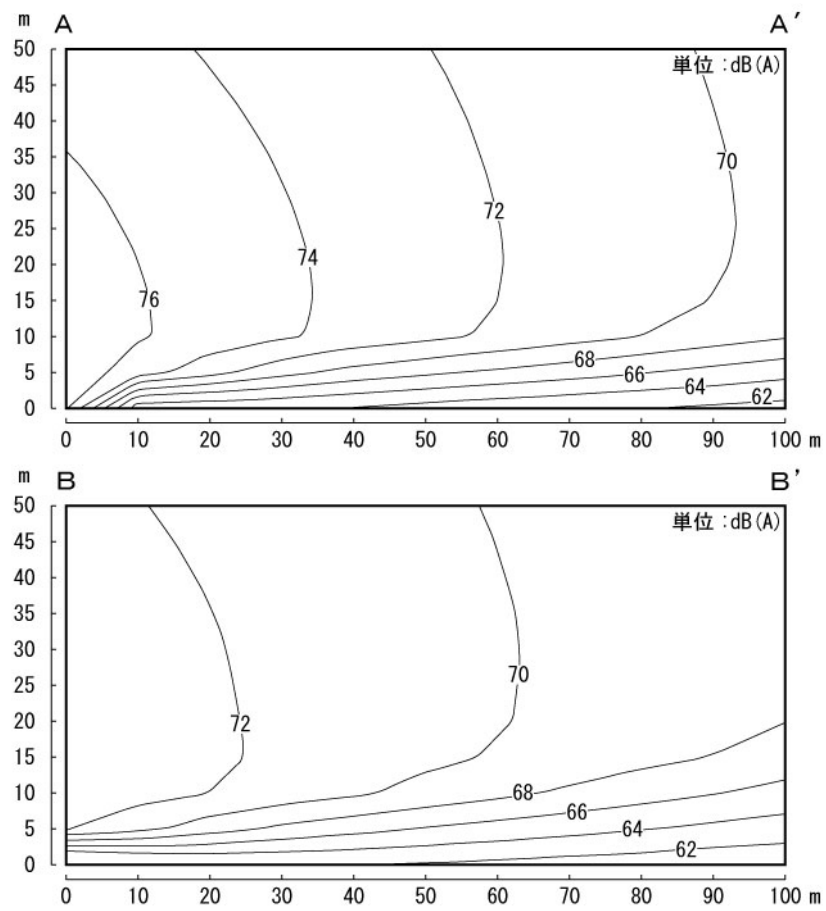


図 - 2 断面予測結果

【背景交通量】

単位：台/16時間

予測断面	車 種	現況交通量 A	ささしま地区 関連車両 B	背景交通量 A + B
№ 1	大型車	782	-	782
	中型車	462	-	462
	小型貨物車	1,859	-	1,859
	乗用車	7,463	-	7,463
№ 2	大型車	142	-	142
	中型車	154	-	154
	小型貨物車	247	-	247
	乗用車	5,050	-	5,050
№ 3	大型車	14	-	14
	中型車	164	-	164
	小型貨物車	325	-	325
	乗用車	2,115	-	2,115
№ 4	大型車	504	-	504
	中型車	640	-	640
	小型貨物車	590	-	590
	乗用車	13,263	-	13,263
№ 5	大型車	87	-	87
	中型車	644	-	644
	小型貨物車	360	-	360
	乗用車	11,423	-	11,423
№10	大型車	1,126	0	1,126
	中型車	1,401	0	1,401
	小型貨物車	1,804	110	1,914
	乗用車	35,541	1,804	37,345
№11	大型車	924	0	924
	中型車	1,470	0	1,470
	小型貨物車	7,433	38	7,471
	乗用車	32,853	604	33,457
№12	大型車	658	0	658
	中型車	1,060	0	1,060
	小型貨物車	5,298	16	5,314
	乗用車	22,832	294	23,126

注)1: ささしま地区関連車両は、「ささしまライブ 24 地区」(仮称)グローバルゲート」建設事業に係る環境影響評価準備書」(ささしまライブ 24 特定目的会社, 平成 21 年)より設定した。

2: ささしま地区関連車両を想定した№10～12 以外については、「-」と表記した。

単位：台/16時間

予測断面	車 種	現況交通量 A	ささしま地区 関連車両 B	背景交通量 A + B
№13	大型車	226	-	226
	中型車	533	-	533
	小型貨物車	1,887	-	1,887
	乗用車	10,854	-	10,854
№14	大型車	45	-	45
	中型車	241	-	241
	小型貨物車	714	-	714
	乗用車	3,901	-	3,901

注) ささしま地区関連車両を想定した№10～12 以外については、「 - 」と表記した。

【工事関係車両の交通量】

北地区

予測 断面	日交通量(台/日) [()内は時間交通量(台/時)]		
	大型車		小型車
	大型車	中型車	小型貨物車
	7 ~ 17 時 (11 ~ 13 時を除く)	7 ~ 21 時 ^{注)} (11 ~ 13 時を除く)	7 ~ 21 時 ^{注)} (11 ~ 13 時を除く)
№ 1	123 (15)	30 (0 ~ 8)	105 (0 ~ 29)
№ 2	70 (9)	17 (0 ~ 1)	60 (0 ~ 5)
№ 3	35 (4)	9 (0 ~ 1)	30 (0 ~ 3)
№ 4	123 (15)	30 (0 ~ 4)	105 (5 ~ 15)
№ 5	105 (13)	26 (0 ~ 2)	90 (0 ~ 8)
№10	35 (4)	9 (0 ~ 1)	30 (0 ~ 3)
№11	35 (4)	9 (0 ~ 1)	30 (0 ~ 3)
№12	18 (2)	4 (0 ~ 1)	15 (0 ~ 1)
№13	53 (7)	13 (0 ~ 1)	45 (0 ~ 4)
№14	18 (2)	4 (0 ~ 1)	15 (0 ~ 1)

注) 北地区事業の中型車や小型貨物車の走行は、7 ~ 8 時及び 18 ~ 21 時に配分する計画であるが、本予測対象時期においては、これらの走行台数が多くなるため、この台数を他の時間帯にも振り分けることにより、特定の時間帯への過大な負荷を低減させる計画とした。

南地区

予測 断面	日交通量（台/日）[()内は時間交通量（台/時）]			
	大型車			小型車
	大型車		中型車	小型貨物車
	7～17時 (11～13時を除く)		6～21時 (11～13時を除く)	6～21時 (11～13時を除く)
	ダンプ車両 生コン車両	トレーラ		
№ 1	116 (15)	30 (4)	85 (7)	65 (5)
№ 2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
№ 3	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
№ 4	23 (3)	0 (0)	17 (2)	11 (1)
№ 5	19 (2)	0 (0)	14 (1)	8 (1)
№10	4 (1)	0 (0)	3 (1)	2 (1)
№11	4 (1)	0 (0)	3 (1)	2 (1)
№12	4 (1)	0 (0)	3 (1)	2 (1)
№13	8 (1)	0 (0)	6 (1)	4 (1)
№14	4 (1)	0 (0)	3 (1)	4 (1)

【建設機械の基準点における振動レベル】

地区名	図番号	建設機械名	規格	基準点における振動レベル (dB)	振動源より基準点までの距離 (m)	稼働台数 (台)	出典
北地区		バックホウ（圧砕）	0.4～0.7m ³	67	10	5	*2
		バックホウ（掘削等）	0.4～0.7m ³	56	7	5	*1
		コンプレッサー	50HP	78	7	3	*1
		クローラクレーン	50～200t	67	7	12	*1
		ラフタークレーン	25t	67	7	2	*1
		コンクリートポンプ車	大型	47	5	3	*3
		コンクリートミキサー車	10t	47	5	4	*3
		ダンプトラック	10t	67	7	7	*1
南地区		バックホウ（掘削等）	0.4m ³	56	7	1	*1
		コンプレッサー	50HP	78	7	1	*1
		クローラクレーン	50～100t	67	7	9	*1
		泥水プラント	200kVA	49	5	1	*3
		コンクリートミキサー車	10t	47	5	3	*3
		ダンプトラック	10t	67	7	2	*1

注)1:図番号は、評価書参考資料図 4-1-1 (p.61) に対応する。

2:ラフタークレーン、コンクリートポンプ車は、それぞれクローラクレーン、コンクリートミキサー車のデータを用いた。

出典) *1「建設作業振動対策マニュアル」(社団法人 日本建設機械化協会，平成 6 年)

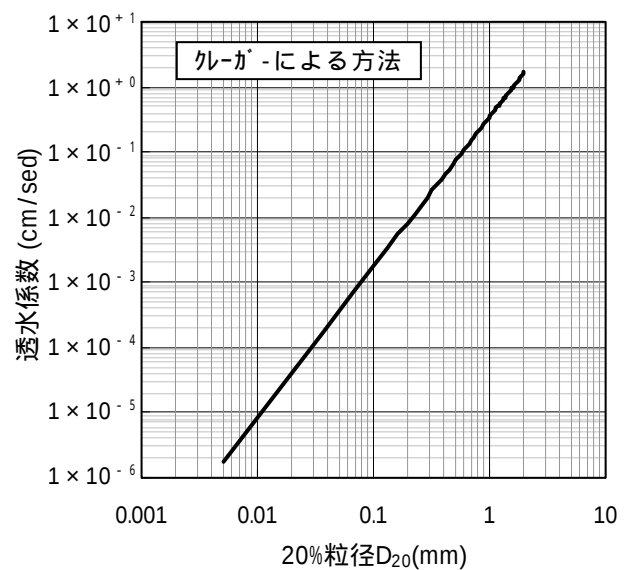
*2「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック (第 3 版)」

(社団法人 日本建設機械化協会，平成 13 年)

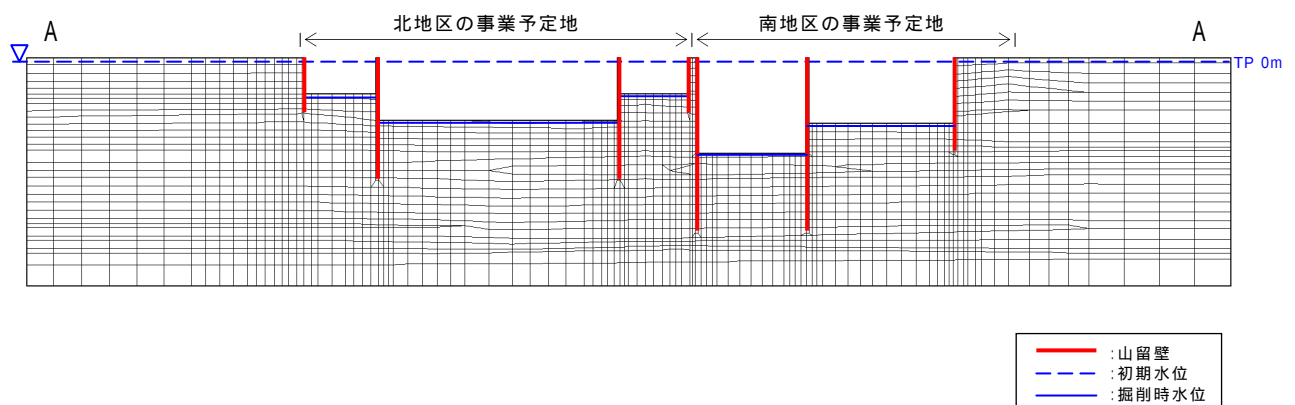
*3「建設騒音振動の予測評価手法に関する研究第 1 報」(建設省土木研究所，昭和 56 年)

有限要素法による浸透流解析によって、A - A'断面における掘削時の地下水位変動を予測した。予測に用いた透水係数は、砂質土層及び礫質土層については現場透水試験結果より決定し、粘性土層については粒度試験で得られた20%粒径から、クレーガーによる方法で一律 $1 \times 10^{-6} \text{cm/sec}$ と設定した。

土 層	土 質	20% 粒径 $D_{20}(\text{mm})$	透水係数 $k (\text{cm/s})$
D _{3U} -s1	砂質土		2.0×10^{-3}
D _{3U} -c1	粘性土	< 0.001	1.0×10^{-6}
D _{3U} -s2	砂質土		6.1×10^{-4}
D _{3U} -c2	粘性土	< 0.001	1.0×10^{-6}
D _{3U} -s3	砂質土		4.0×10^{-4}
D _{3L} -c1	粘性土	< 0.001	1.0×10^{-6}
D _{3L} -s1	砂質土		1.0×10^{-4}
D _{3L} -c2	粘性土	< 0.001	1.0×10^{-6}
D _{3L} -s2	砂質土		1.0×10^{-4}
D _m -G1	礫質土		7.7×10^{-3}
D _m -c1	粘性土	< 0.001	1.0×10^{-6}
D _m -s1	砂質土		2.0×10^{-5}
D _m -s2	砂質土		2.0×10^{-4}
D _m -c2	粘性土	< 0.001	1.0×10^{-6}
D _m -s3	砂質土		2.0×10^{-5}
D _m -c3	粘性土	< 0.001	1.0×10^{-6}
D _m -G2	礫質土		3.1×10^{-3}



有限要素法による浸透流解析モデルは下記の通りである。

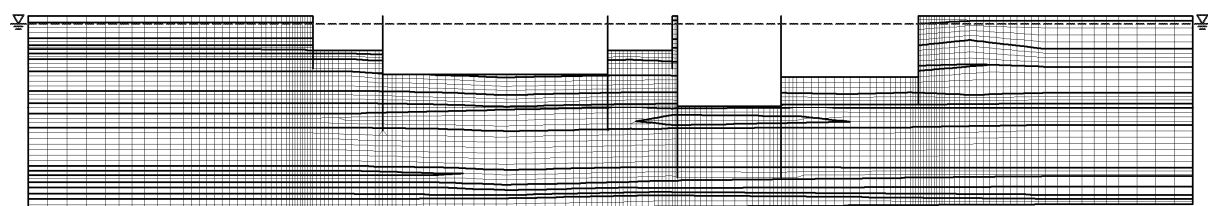


予測を行った結果、ディープウェル排水を行う土層及びそれより上の土層の地下水位低下量は下表のようになり、最大でも 1 ～ 2 mm の水位低下が算出された。

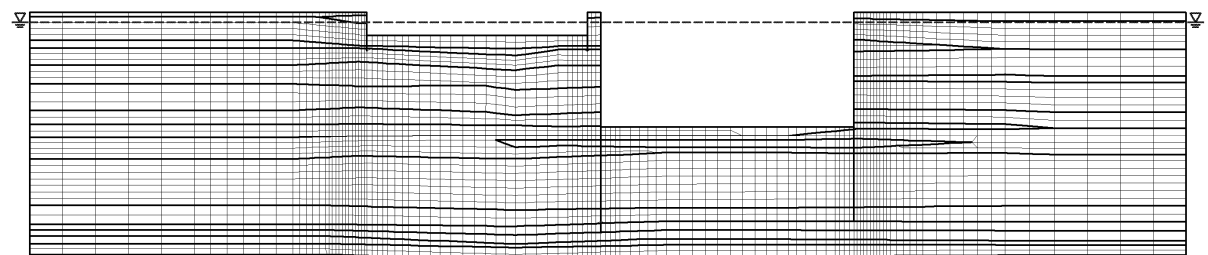
土層名	水位低下量 (cm)	
	A 側山留壁外側 (北地区外方)	A '側山留壁外側 (南地区外方)
D _{3U} -s1	0.0	0.0
D _{3U} -c1	0.0	0.0
D _{3U} -s2	0.0	0.0
D _{3U} -c2	0.0	0.0
D _{3U} -s3	0.0	0.1
D _{3L} -c1	0.0	0.1
D _{3L} -s1	0.1	0.1
D _{3L} -c2	0.1	0.1
D _{3L} -s2	0.0	0.1
D _m -G1	0.0	0.2

地盤変位の予測に用いた有限要素分割図は、以下に示すとおりである。なお、図中の太線は地層境界及び山留壁を表す。

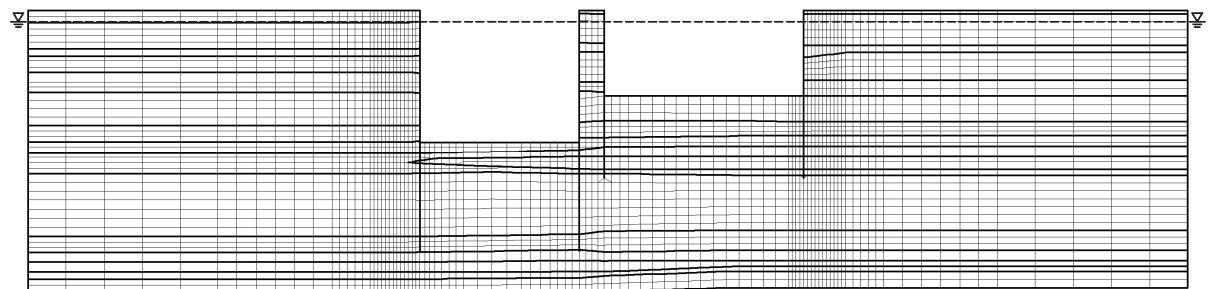
A - A'断面



B - B'断面

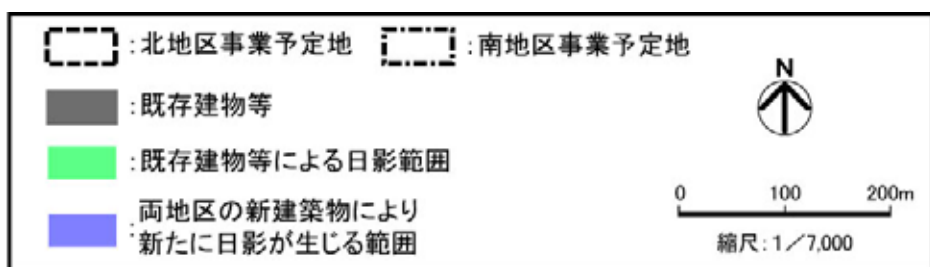


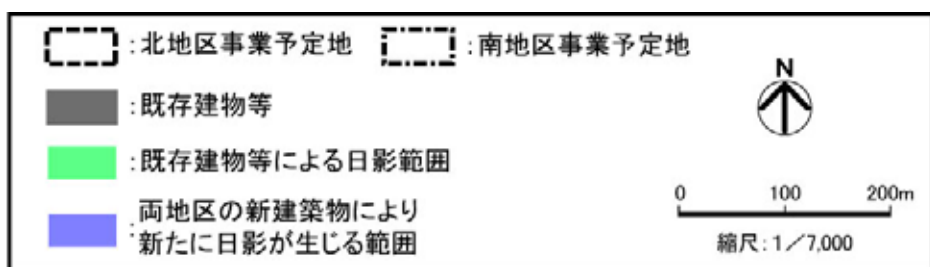
D - D'断面

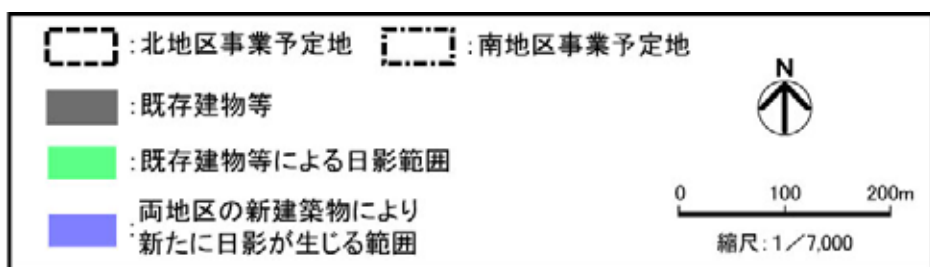


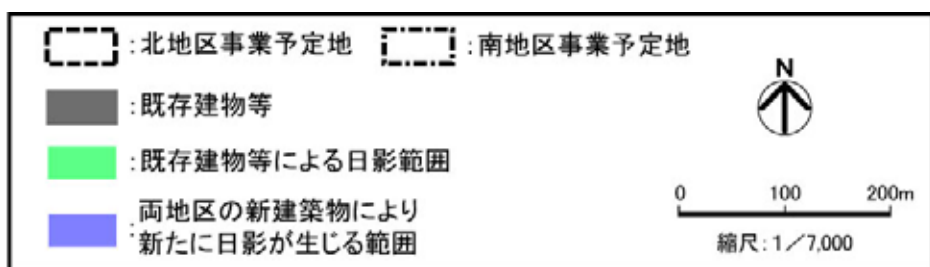
両地区事業予定地及び周辺建物等を含む冬至日における時刻別日影図（平均地盤面 + 4 m）は、以下に示すとおりである。











【背景交通量】

単位：台/16時間

区間記号		現況交通量	ささしま地区 関連車両	背景交通量
		a	c	a+b+c
A		29,721	-	29,721
B		26,208	-	26,208
C		11,431	-	11,431
D		5,571	-	5,571
F		27,469	-	27,469
G		12,646	-	12,646
H		29,180	-	29,180
J		30,475	-	30,475
L		2,933	-	2,933
M		15,990	-	15,990
N		8,429	-	8,429
O		31,309	-	31,309
P		5,607	-	5,607
Q		12,030	-	12,030
R		13,135	-	13,135
S	S-1	13,167	-	13,167
	S-2	13,167	-	13,167
T		8,153	-	8,153
U	U-1	22,769	-	22,769
	U-2	22,769	-	22,769
V		5,999	-	5,999
Y		33,087	-	33,087
A B		33,189	-	33,189
A C		14,523	-	14,523
A D		17,934	314	18,248
A I		35,196	-	35,196
A J		31,198	314	31,512
A K		42,961	634	43,595
A L		45,917	634	46,551
A O		36,722	1,888	38,610
A R		39,358	1,888	41,246
A S		31,490	-	31,490

- 注)1:区間記号は、評価書参考資料図 8-1-1 (p.95) の区間位置を示す。
2:ささしま地区関連車両は、「ささしまライブ 24 地区「(仮称)グローバルゲート」建設事業に係る環境影響評価準備書」(ささしまライブ 24 特定目的会社,平成 21 年)より設定した。
3:ささしま地区関連車両を想定した区間 AD、AJ～AL、AO 及び AR 以外については、「-」と表記した。

【工事関係車両の発生集中交通量】

事業名	工事関係車両台数 (台/日)	発生集中交通量 (台 TE/日)
北地区	379	758
南地区	207	414
合 計	586	1,172

注) 16 時間も同じ台数である。